

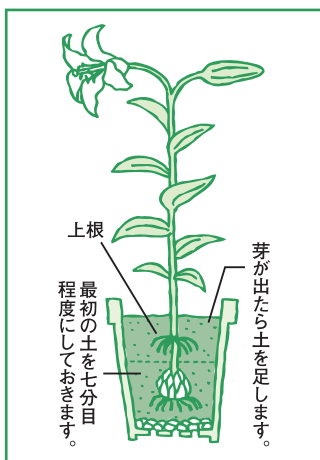
【深く植え付けるのがポイント】

ユリやフリージアなど、球根の上から根が出たり、新球ができたりする種類は、ほかのものと違って深く植え付けるのがポイントです。鉢植えにする場合は、底の深い鉢を選びましょう。

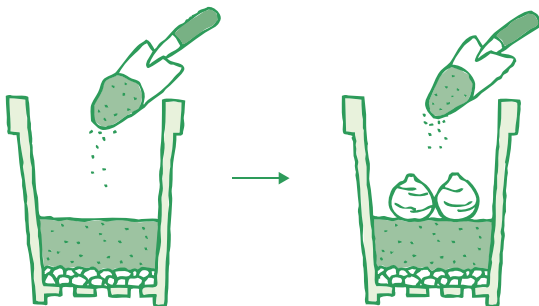
【植え付けの一例】

用意するもの

ユリの球根2個・鉢(口径20×深さ25cm)・培養土・肥料・鉢底石・鉢底ネット

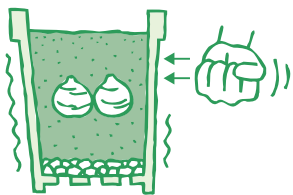


植え方



**1** 鉢底ネットを敷いて底が隠れるほどの鉢底石を入れ、その上に肥料を混ぜた培養土を球根の倍の深さまで入れます。

**2** 球根の上下を確認してから、球根2つを並べて置きます。2つの球根がくっついていても芽は間隔を開けて出てきます。



**3** 鉢の九分目まで土を入れ、土が全体に平均して詰まるように、握りこぶしで鉢の周辺を叩いて土を落ち着かせます。ユリは秋植えタイプです。植え付けた球根は、3~4月になると芽が出て、5~6月になると花を咲かせます。

(草丈が高くなるので、あらかじめ支柱を立てておくと良いでしょう。)

ヒヤシンスの水栽培

用意するもの／水栽培用の球根・専用容器  
栽培開始時期／10月末から11月初め

栽培方法／水を球根の底すれすれまで入れ、根が出るまでは、涼しく暗いところへ置きます。根が5cmほど伸びたら球根と水の間を約1cmにし、水を月に2~3回取り替えます。根が容器の底に回るくらい伸びたら、日の当たる窓際に出します。



ナルホド大辞典

球根の主な病気と防除去

■モザイク病

スイセンやユリの葉にぼんやりとしたまだら模様が現れ、株が萎縮して生育が悪くなります。またチューリップの場合は、花にまだら模様が出ます。モザイク病はウイルスによる伝染病で、発生したら致命的で治す方法はなく、見付け次第引き抜いて処分します。予防法としてはベンレート(粉剤)を入れたビニール袋に球根を入れ、よく振ってまぶします。  
※手に付くとニオイがとれないので、手袋をしましょう。

■軟腐病

ダリア・チューリップ・ユリ・ヒヤシンスなどに発生する病気で、地際部からやわらかく腐敗し、地上部では黄変して枯れてしまいます。球根も上部から侵され、軟腐してしまいます。発生は高温多湿時が多く、発生した株は薬剤でも治療はできません。対策としては連作をしないことです。また球根は掘り上げた直後に消毒液に浸しておきましょう。

※その年咲かせた球根は、病気や栄養不足になって育たないことが多いので、毎年新しいものをご購入することをおすすめします。

※画像はイメージです。

2022.03



球根の植え付け

Q. 球根の植え付けって簡単?

YES!

A. 好みに合わせて彩り豊かな花を咲かせましょう。

- 球根の基礎知識
- 球根の選び方
- 球根の植え付け
- 育て方のポイント
- ユリ球根の植え付け
- ヒヤシンスの水栽培

やってみよう!

## 球根の基礎知識

球根を植える時のポイントは、深さと植え付けの向きです。また時期についても春植え・夏植え・秋植えとあり、管理方法などが異なります。基本をしっかり理解して、美しい花を咲かせましょう。

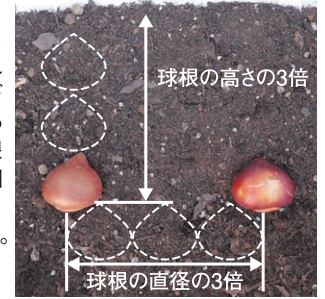
## 球根の選び方

球根は貯蔵養分の量が多く、病害虫に侵されていないものを選ぶことが大切です。購入時には次の点をチェックしましょう。

- ①傷が付いていないか
- ②堅くて充実感があるか
- ③腐れや病斑がないか
- ④異常に小さくないか

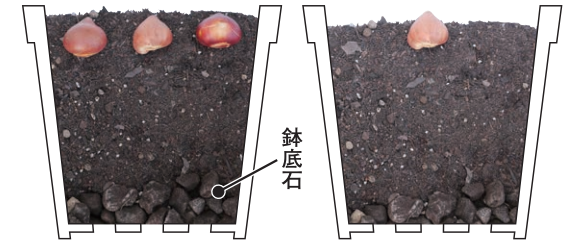
## 球根の植え付け

●庭や花壇に植え付ける  
深さ30cmくらいまで土をよく耕し、球根の約3倍の深さに植えます。植え付ける間隔は、球根の直径の3倍が目安ですが、一季だけ花を咲かせるチューリップやクロッカスなどの球根は、より密に咲かせるために球根1個分くらいの間隔にします。植え付ける球根の向きを揃えましょう。



### 鉢やプランターに植え付ける

鉢やプランターに植える場合は、根の生育できるスペースが限られているので、球根の頭が隠れるくらい浅く植え、球根の下に根が伸びる余地を多く残します。特にアマリリス・シクラメン・球根ペゴニアなどは水はけが良いのを好む性質なので、球根の肩部分が露出するくらいの浅植えにします。



一般には芽が隠れる程度に植え、大型種などは球根の肩部分を少し出して植えます。

## 主な球根の植え付け適期

	品 種	深さ・間隔	植え付け時期	花 期	ポイントアドバイス
秋植え球根	チューリップ	球根の3倍ほど/10~15cm	10~12月	3月下旬~5月	花後に花弁が葉の上に散ると葉が腐り、球根の充実を妨げます。葉が黄変したら球根を掘り上げましょう。
	ユリ	球根の4~5倍とかなり深めに	10~12月	5~8月	球根の下から出る根は植物を支える役目だけで、養分は茎の土中部分から出る根が吸収するため、深植えが重要なポイントです。
	スイセン	球根の約3倍ほど/10~15cm	9~10月	12月~翌5月	植え付け場所や用土は排水の良さが絶対条件です。根が深く伸びるので、庭なら深く耕しましょう。2~3年は植えたままで楽しめます。
	アネモネ	約5cm/12cmほど	9月下旬~11月	3~5月	9月下旬以降に平らな方を上にして植えます。球根が小さいので密植になりやすいのですが、生育が旺盛なので間隔は広めにとります。
	ヒヤシンス	球根の約3倍ほど/15cmほど	9~11月	3~4月	砂質土壌を好むので、鉢・プランターともやや砂を多く加えると良いでしょう。花壇でも粘土がかかった土であれば、砂を加えます。
	ムスカリ	3~5cm/なるべく密植させます	10~11月	3~5月	3~4年は植えたままでも楽しめますが、葉が早く出て姿が乱れます。花が終わったら花穂を切りとり、茎葉が枯れたら掘り上げて、涼しいところで休眠させます。
	フリージア	約5cm/5~10cm	9月下旬~12月中旬	2~5月	球根を育てるためには、早めに花を摘みとり、葉が黄色になったら掘り上げて、日陰で乾燥させ、涼しいところで貯蔵します。
春植え球根	カラー	約10cm/15cmほど	3月~4月下旬	6月中旬~7月	水辺に植えたもの以外は、通風を良くして乾燥気味に育てますが、盛夏は夕方につぶり水をやりましょう。
	アマリリス	球根の肩が見えるくらい/20cm	3~4月	5~7月、10月	鉢植えは植え付けてすぐに固形肥料を与え、その後も肥料切れしないよう注意しましょう。植え付け後はしばらくは水を控え(3週間くらい)、その後はたっぷり水をやります。
	ダリア	5~10cm/50~60cmほど 巨大輪種は1m前後間隔をとります	4~5月	5~10月	芽が地上に出たら、大輪種で1つ、中小輪種で2つほど残して根元からかきとり、その後育成に応じて葉脇から出る芽もかきとって(少しは残す)天花を楽しみましょう。
夏植え球根	グラジオラス	5~10cm/10~15cmほど	4~7月	6~10月	日当たりと通風が良く、アヤメ科の植物を植えたことのない場所が最適です。芽が出たら土寄せをしたり、開花前にネットやテープなどで倒れるのを防ぎます。
	リコリス	7~10cm/5~13cmほど	6~9月	7~9月	水はけと日当たりが良く、保水性に富む場所が最適です。数年間は植えたままにした方が、花立ちが多くて見事です。鉢植えは8月上旬までに植えます。
	サフラン	5~10cm/3~5cmほど	4~7月	10月下旬~11月上旬	有機質に富んだ、水はけと日当たりの良い場所に、なるべく大きな球根を植えます。地植えなら3~4年はそのまま。プランターでの密植や水栽培も楽しめます。
	コルチカム	20cm/10cmほど	8月~9月下旬	9~10月	やや軽い、排水の良い砂地がかかった土質を好みます。植えっぱなしでもよく開花し、肥料も早春に化学肥料を少し施す程度で十分です。

## 育て方のポイント

### ●水やり

秋植えの球根は冬の水やりに注意しましょう。庭植えの場合は必要ありませんが、鉢の場合は、土の表面が乾いたら暖かい日の午前中にたっぷり水をやり、水切れすると、花が咲かないため、1週間に1度は水をあげましょう。

### ●肥料

良い球根は無肥料でも開花しますが、緩効性肥料を元肥として入れます。すると元気な花を咲かせます。

### ●置き場所

鉢やプランターの場合は日当たりの良い戸外に置きます。霜にあたり、凍結させないように軒下やベランダなどを選び、風あたりの強い場所も避けます。